

## 第1回 総社市復興ビジョン委員会 議事要旨

- 日 時：平成30年11月1日（木）13:30～
- 会 場：総社市保健センター1階 運動指導室
- 出席者：

総社市：片岡市長，田中副市長，中島政策監，野村部長

大阪府松原市：澤井市長

委 員：浅沼委員，小西委員，平松委員，清水委員，吉澤委員，風早委員，  
高橋委員，後藤委員，松本委員（代理出席），佐野委員

兵庫県立大学減災復興政策研究科 青田教授

仙台市まちづくり政策局 梅内次長

### 1. 開会

#### （1）黙祷

#### （2）市長挨拶

- ・本日付で復興推進室を立ち上げた。
- ・12/31 までに復興ビジョンを出す。3つの視点を考えており，復興だけでなく，市のトータルデザインを描いていきたい。  
視点1．強くてしなやかなまち  
視点2．人口，経済が右肩上がりのまち  
視点3．下原地区，昭和地区の復興と新たなまちづくり

#### （3）松原市 澤井市長挨拶

#### （4）委員紹介

### 2. 議事

#### （1）復興ビジョン・復興計画について

- ・兵庫県立大学減災復興政策研究課 青田教授より，「災害からの復旧・復興と自助・共助・公助の連携（阪神・淡路大震災，新潟県中越地震の教訓を例に）」について，パワーポイント使用して説明。
- ・仙台市まちづくり政策局 梅内次長より，「仙台の震災被害と復興の現状について」，パワーポイントを使用して説明。

#### （2）意見交換

○昭和地区復興委員会代表者 浅沼委員

- ・地域や地区で条件が異なる。ハード面は市にお願いすることとなるかと思う。今回改めて感じたのは，コミュニティが思っていたより弱かったことである。自主防災組織があったが，机上のものであった。

- ・今回、市営住宅で2階まで全て浸かった。被災した人の中で、出て行く人もいる中で、残った人のコミュニティをどうするかが課題である。

○下原地区復興委員会代表者 小西委員

- ・下原地区は市の西南部に位置する農村であり、外部からの移住は少ない。そのため、コミュニティが強く、現在、地区では女性を中心に今後について考えている。
- ・下原地区は、浸水と爆風で116戸全戸が被害にあったが、人的被害はほとんどなかった。地区で自主防災組織を立ち上げており、日頃から水害対策会議を行っている。今回は、夜中に避難することは避け、2階など高いところにいるよう呼びかけていた。今回の爆発は、午後11時36分頃であったが、呼びかけを行っていたことが良かった。700kgぐらいの鉄骨が飛んできたが、たまたま人がいない所に落ちた。
- ・人的被害がなかったのは伊予部神社のお陰ということで、地区の女性たちがお守りを作っている。今後、これを販売しようと考えている。
- ・地区は米作りを中心に行っており、稲刈りをすると地区の住民も元気になると思う。また、復興米として販売することも考えている。

○総社市コミュニティ地域づくり協議会会長 平松委員

- ・災害後、市職員、消防等よくやってくれていたが、市・消防・議会の連携がとれていないと感じた。また、復旧に向けて、職員OB等に声かけはしたのか。
- ・11月2日に17地区のコミュニティの会長が集まって会議を行う。ここでいろいろな意見が出るかと思う。
- ・復興にあたっては、下原地区などの道路が狭く緊急車両が通れないところなどの改善等の検討も必要ではないか。

○総社商工会議所会頭 清水委員

- ・復興計画では、被災地区だけでなく、被災しなかった地区を含めて災害に遭わないような対策を示す必要がある。
- ・昭和地区では排水施設の要望が出るのではないか。
- ・防災・減災の観点では、防災マップを配っているが浸透していないので、この反省を踏まえて対策をとる必要がある。
- ・最近は大雨が増えた上、田んぼが減り、舗装された道路等が増えたので、保水力が下がっている。ダムのかさ上げなどの対策が必要ではないか。

○総社吉備路商工会会長 吉澤委員

- ・今回の災害は、備えあれば憂いなしの次元を越えた。いかに復興に取り組むかが重要である。
- ・遠い親戚より近くの他人というように、コミュニティが重要である。
- ・また、復興においては、女性の力が重要である。

○総社市社会福祉協議会会長 風早委員

- ・復興計画については、総合計画との関連が重要である。
- ・災害復旧で取り組んだことの総括が必要である。自主防災組織が機能しなかった、避難勧告・避難指示・避難命令の違いがわからない等、いろいろあるかと思う。これらを踏まえて安全・安心を確保し、二度と同じ場所で被害に遭わないようにしていかなければならない。
- ・市民の意識啓発の方法、地域の人を力をつけていくことを考えていくべきである。
- ・被災地だけでなく、市全体で支えあい、自助・共助していかなければならない。
- ・みなし仮設の居住者の孤立を防ぐ対策が必要である。

○岡山県立大学学生部長 高橋委員

- ・大学では、ボランティア支援として15人が参加した。
- ・看護学科、保健福祉学科、建築に関連するデザイン工学科などがあり、大学として何ができるかを考えてながら、尽くしていきたい。

○株式会社L I F U L 地方創生推進部 後藤委員

- ・住まいのことがwebを通した支援を行っていきたい。
- ・コミュニティのツールとして活用できるように検討していきたい。

○総社青年会議所理事長 小坂委員（代理 松本委員）

- ・ボランティアを行っていて、“まさか”（こんなことが起こるとは）という声が多かった。災害はいつ起こるかわからないという意識づけが重要である。そのためにもハザードマップの周知は重要である。
- ・子どものストレスケアなどについてももしっかり貢献していきたい。

○総社商工会議所青年部会長 佐野委員

- ・これまで災害を意識していなかった。これから様々な組織や人がどう連携するかを考えていかなければならない。
- ・12月に綱引き大会を開催することとなった。災害後、地区のお祭りなども自粛しているところが多く、中止も考えたが、復興を考えて開催することとなった。是非とも参加していただきたい。

### 3. 閉会 副市長挨拶

- ・災害後4ヶ月間、多くの支援を受けながら市民一丸となって、復旧に向けて突っ走ってきた。
- ・これからは2ヶ月で復興ビジョンを決めていく。今後100年の市の体系になると思うので、委員の皆様のご協力をお願いしたい。